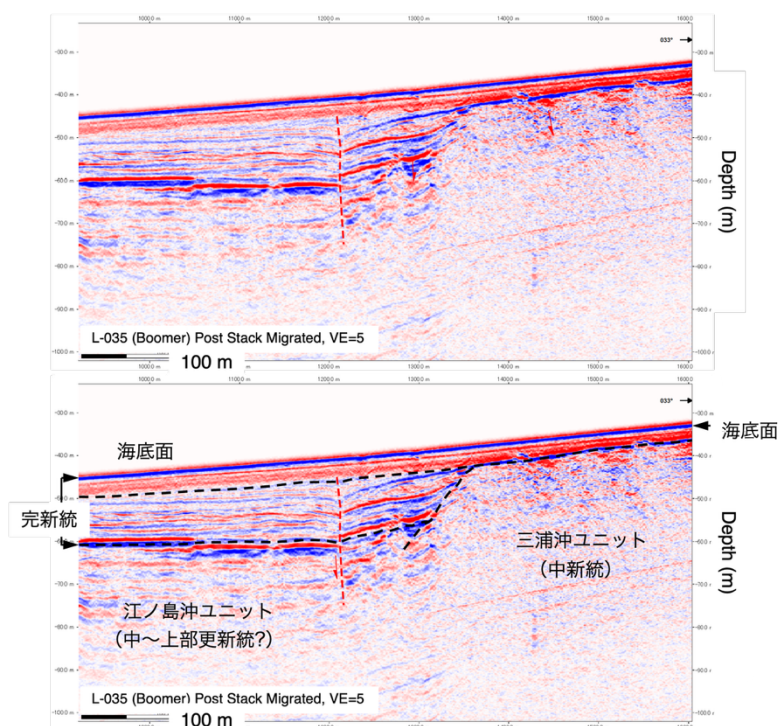
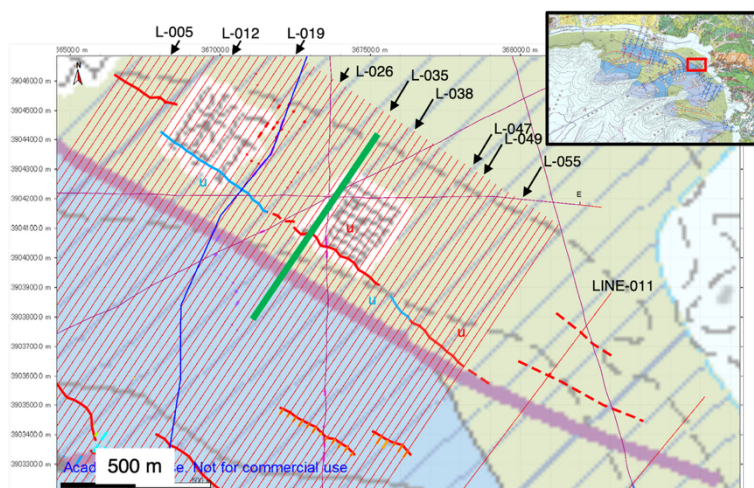


1. 活断層の詳細位置・形状・活動性解明のための調査研究



海域高分解能探査による逗子沖断層の構造

上：構造解釈前の深度断面、下：構造解釈を加筆した深度断面
断層が基盤岩類および完新統を変位させることがわかる。

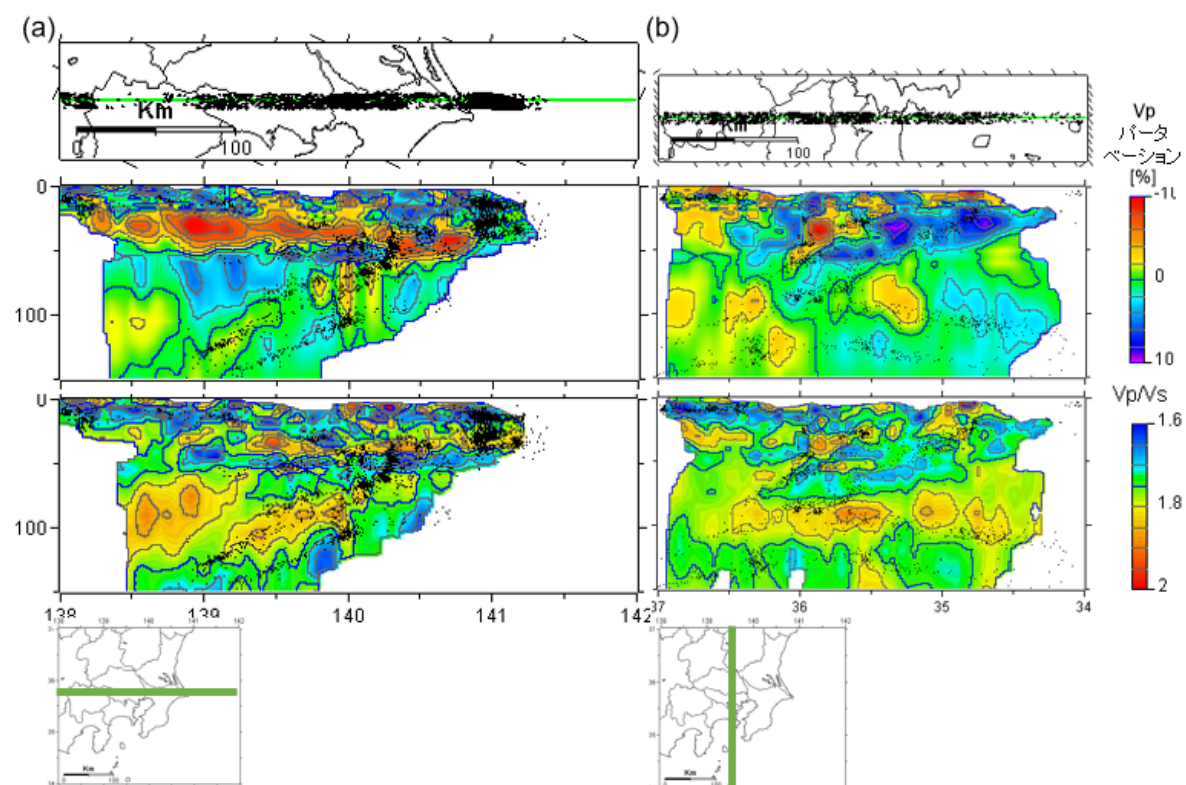


海域高分解能探査による逗子沖断層の分布

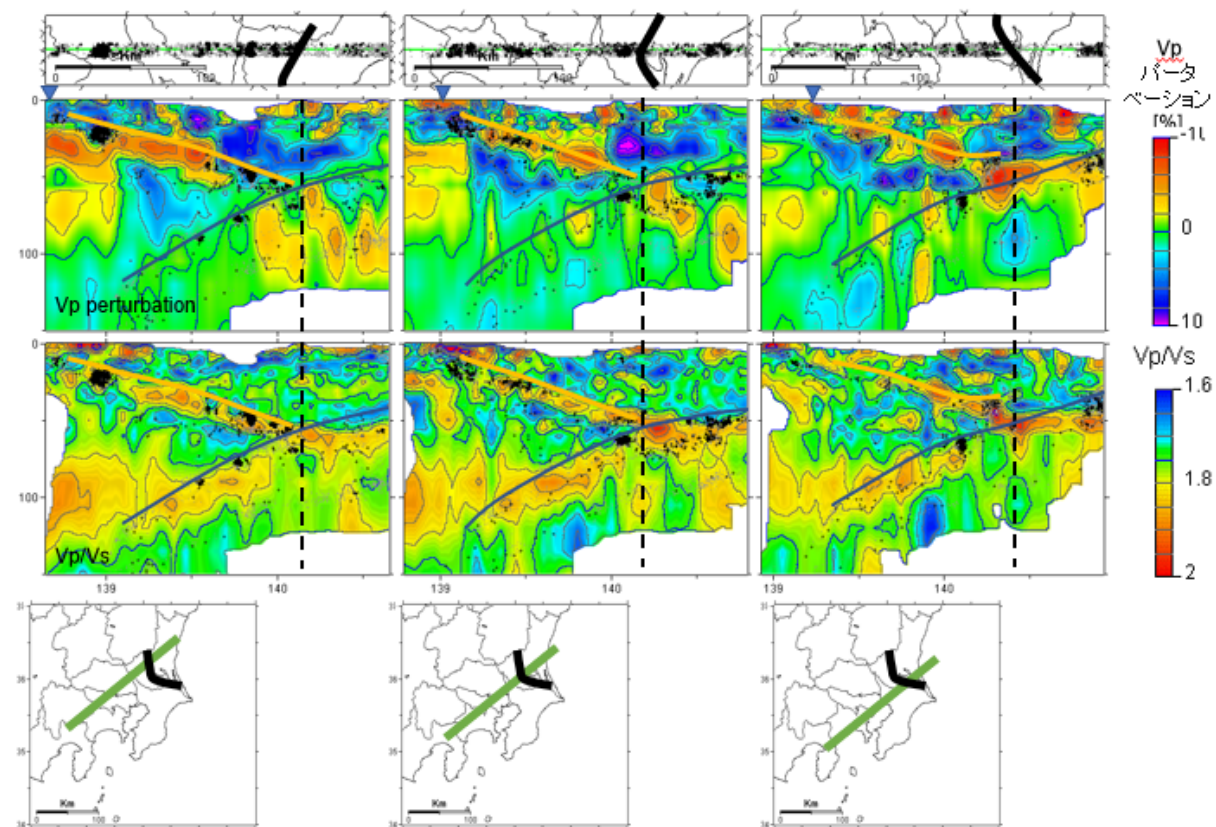
稠密高分解能探査によって、相模湾内のより詳細な断層の分布が明らかとなった。

背景：尾崎・他 2021；青線：本事業による測線；赤線：産総研 2021 による測線；緑線：上図の測線位置。

2. 地震活動から見たプレート構造解明のための調査研究



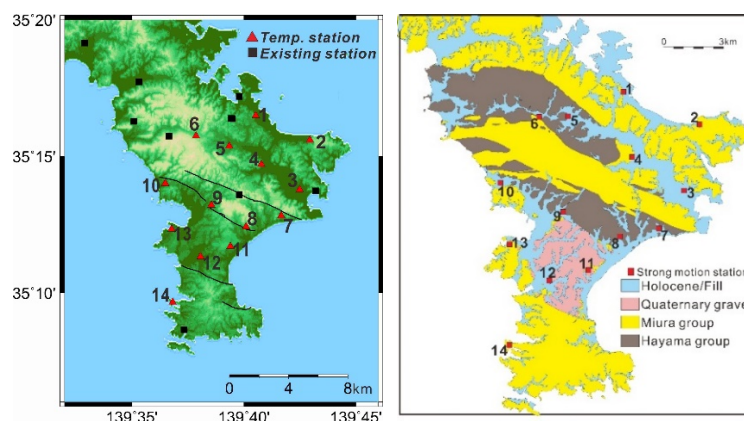
P波速度パータベーションと V_p/V_s の(a)北緯 35.8 度の東西断面と(b)三浦半島を縦断する東経 139.6° の南北断面。



P波速度パータベーションと V_p/V_s の三浦半島周辺から北東にかけての相模トラフに直交する断面。

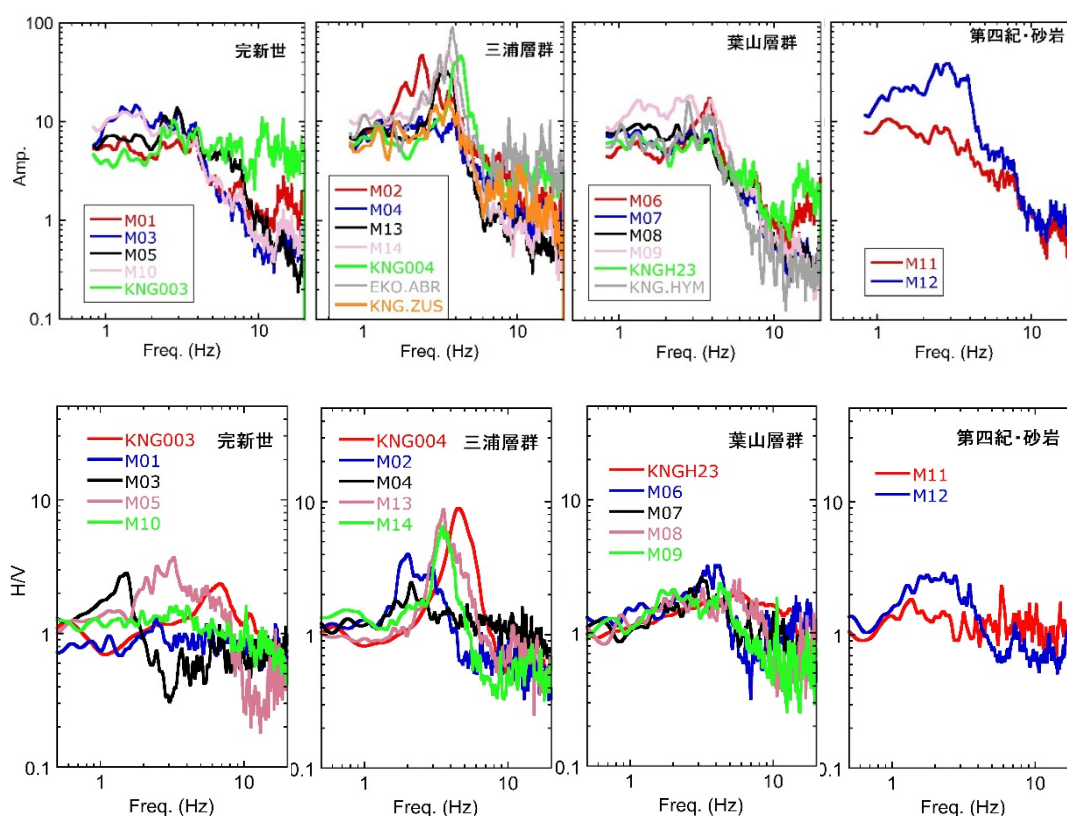
3 強震動予測のための調査研究

3. 1 地下構造等のモデル化



本業務で設置した臨時強震観測点

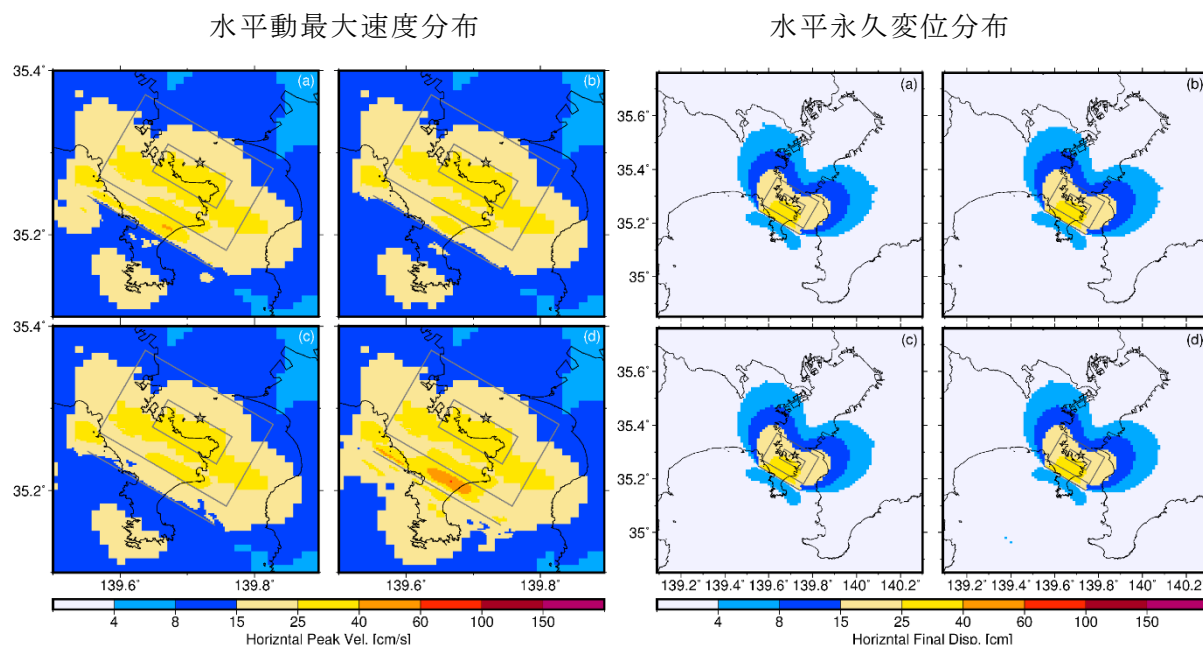
臨時強震観測点（▲）と既存の強震観測点（■）の位置を左図に示す。これらの観測記録が、地下構造等のモデル化に活用される予定である。黒線は主要な活断層を示す。右図は地質区分であり、観測点の増幅特性と比較される。



三浦半島地域の主要な地質区分毎の強震観測点の地盤特性

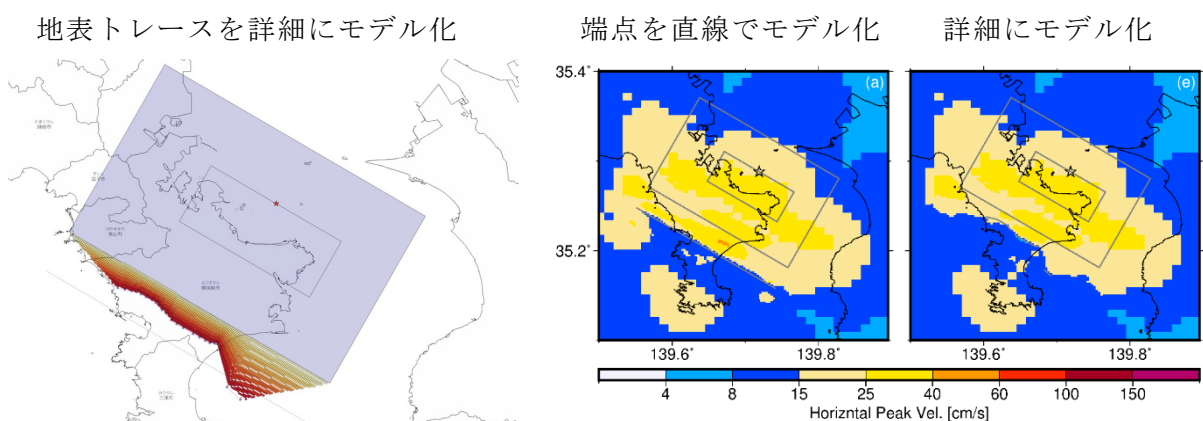
臨時強震観測点と既存の強震観測点の両者について、スペクトルインバージョンで推定した増幅特性（上図）が、地質区分と概ね対応しており、特に三浦層群における増幅が顕著である。また、臨時強震観測点の微動記録の水平動と上下動の比 H/V （下図）も同様の傾向を示した。

3. 2 強震動予測のための調査研究：地表変形を含む強震動予測の高度化



地震発生層より浅部のすべり速度時間関数の違いによる断層周辺の地震動分布の比較

4通りのすべり速度時間関数 (a) Smoothed Ramp 型、(b) 田中・他 (2017)、(c) Pitarka et al. (2022)、(d) 中村・宮武 (2000)。最大速度振幅は(d)>(a)>(b)>(c)の傾向が見られるが、(d)以外の違いは小さく、永久変位分布は(d)も含め変わらない。



地表トレースを詳細にモデル化した震源モデルと水平永久変位分布

地表トレースを詳細にモデル化することにより、地表断層付近永久変位や地震動分布が複雑になる。詳細なモデル化の重要性を示唆している

4. 地域連携勉強会



令和6年度地域連携勉強会の様子

2024年7月26日に、横須賀市産業交流プラザ第2研修室において、令和6年度地域連携勉強会を実施した。申込人数は23名（参加人数21名）で所属機関は自治体・政府関係機関が8機関、ライフラインや公共交通機関が5機関であった。令和5年度に実施したアンケート内容を基に短い時間の講演でなるべく理解を深めてもらうための工夫を実施した結果、参加人数の倍近い40件の質問が挙がり、終了後の理解度アンケートでも7割が理解できた・ある程度理解できた、と回答した。参加人数は期待よりもやや下回ったが、勉強会としては盛況であった。

また地域の防災リテラシー向上のためには若い世代に地震や地学に興味を持ってもらうことが重要であることから、教員向けの地域連携勉強会の開催を検討している。その準備として、県内の小中学校の教員に対してニーズ把握を目的としてアンケート調査を実施した。勤務先や県内の活断層の知識に関する設問の回答からは、ほとんどの教員は活断層に関する知識を持ち合わせないことが明らかとなった。一方で、地震防災については授業や防災訓練の際に児童生徒と話をする機会があることから、このギャップを埋めることが勉強会に対するニーズであると考えられる。

（設問）勤務先の市町に存在する活断層について知っていることをチェックしてください（複数回答可）。

（回答）

